

座談会 技術者、マニアの期待と注文

出席者全員がダム工学会会員だ。国土交通省OBの濱口達男ダム工学会会長は現在、コンサル会社副社長であり、多くの業界団体活動に携わっている。西村香保里さんもコンサル会社に勤める女性技術者。ダムファンの萩原雅紀氏、星野夕陽氏は日本ダム協会の「ダムマイスター」に任命されている。ダムのイベント司

会歴が豊富な日本ダム協会の中野朱美さんが、それぞれに、ダムとの「なれそめ」、ダムの魅力とは、どうすればダムの正しい理解が得られるか、期待と注文、今後ダムにどうかかわっていくのかなど、意見を聞いた。(本文中のダムファン、ダムマニア、ダム愛好家は同義で使用)

能力と魅力の存分な発揮を求めて

身近な存在が興味

司会(中野) これから皆さんにダムとかかわりやダムの魅力をどう伝えたいか、さらには今後のダムに関することとダム工学会への期待・注文、自身の活動をどう進めたいかと考えているかなど、忌憚(きたん)のないご意見を賜りたいと思います。私は司会・進行を務めます日本ダム協会の中野です。多少しくお願ひいたします。はじめに、自己紹介を兼ねてダムとかかわるようになった経緯・きっかけからお聞かせください。

濱口 建設省(現国土交通省)職員としてダム事業に関係した年月は長いですが、ダムの現場は経験したことがなく、ほとんど調査・計画畑でした。最初のダムとかかわりは学生実習の時です。北海道を希望したところ開発局の十勝ダム調査事務所に行くことになりました。ダムの基本三角形計算の課題を与えられ、機械式手回しのタイガー計算機を使った記憶があります。ダムマイスターの中村靖治さんが当時の所長で、若くて格好よかったですよ。翌年、建設省採用となって近畿地方建設局に配属され、治水水利計画や個別ダムの予備調査などを経験しました。一番印象に残っているダムは徳山ダムです。岐阜県に出向し河川課長を務めていた時、長良川河口堰の反対運動が政治も巻き込んだ社会的事件となり、推進する受益地域の立場としてその対応に迫られました。その後、中部地建の木曾川上流の所長、河川部長、さらに国土庁の水資源計画課長という立場で河口堰(徳山ダム)にかかりました。河川部長時代はダム事業の見直しとしてダム事業等審議委員会が始まった時期で、事務局として最初から最後まで携わり、委員会にまとめていただいたことを思い出します。その後、地域や関係の方々のご尽力の結果、立派に完成しました。運用に入ってから、特に洪水防衛面で大きな効果を発揮しているのを見聞きしますと、感慨深いものがあります。徳山ダムという貯水池が注目されますが、貯水池の周りの緑をできるだけそのまま残しておこうと工夫されたダムでもあります。



徳山ダム

司会 萩原さんは国内だけでなく、スイスまで行かれたアルプスにあるダムもご覧になったそうですが、日本と海外のダムでは、何か違いを感じられませんか。萩原 海外の中でスイスを選んだ理由は、高さ805m、長さ700mにもおよぶ世界最大級のグラント・ディクスン(Grande Dixence)ダムを見ておきたかったことと、観光立国だからと安全に違いはないかと思ったり。国の面積が九州ぐらいなので沢山のダムを効率よく回れそうだったからという日程のメリットもありました。日本では黒部ダムのような大きいダムをいくつも見てきましたし、宮ヶ瀬ダムのインパクトがその後のダム巡りの原点となつたわけですから、倍のスケールのグラント・ディクスンダムを目の前にたどき、思わず、俺の宮ヶ瀬が……とつぶやいていました。スイスのダムは治水用もあるでしょうが大がかりな発電用、しかもほとんどが無人のようでした。かといって柵で囲っているわけがなく、いたって開放的です。どのダムにも駐車場があったり、ダム湖を周回できる遊歩道も備わっていたり。上流にレストランがあったりもする。ダムにハイキングに来ている人をたくさん見掛けましたが、堤体をパンパン振っているのは日本から来た僕ぐらいでした。

▶ストック時代の貯水池の役割

西村 私、萩原さんと同じように子どもながらダムはすくなく身近な存在でした。家族でよくドライブに出掛けました。海水浴やハイキングと同じようにダムに行き、ご飯を食べたり、走り回って遊んだ記憶があります。私は広島出身なのですが、地元では土師ダムがとてお気に入りです。貯水池の周囲にレジャー施設が整備されていて、桜が満開のころサイクリングに行つた思い出があります。ダムという子どもから楽しむ場所、好きな空間というイメージを抱いていました。今でも帰省の際には、観光放流や夜のライトアップなど、近隣のダムに出掛けますよ。

司会 萩原さんは国内だけでなく、スイスまで行かれたアルプスにあるダムもご覧になったそうですが、日本と海外のダムでは、何か違いを感じられませんか。萩原 海外の中でスイスを選んだ理由は、高さ805m、長さ700mにもおよぶ世界最大級のグラント・ディクスン(Grande Dixence)ダムを見ておきたかったことと、観光立国だからと安全に違いはないかと思ったり。国の面積が九州ぐらいなので沢山のダムを効率よく回れそうだったからという日程のメリットもありました。日本では黒部ダムのような大きいダムをいくつも見てきましたし、宮ヶ瀬ダムのインパクトがその後のダム巡りの原点となつたわけですから、倍のスケールのグラント・ディクスンダムを目の前にたどき、思わず、俺の宮ヶ瀬が……とつぶやいていました。スイスのダムは治水用もあるでしょうが大がかりな発電用、しかもほとんどが無人のようでした。かといって柵で囲っているわけがなく、いたって開放的です。どのダムにも駐車場があったり、ダム湖を周回できる遊歩道も備わっていたり。上流にレストランがあったりもする。ダムにハイキングに来ている人をたくさん見掛けましたが、堤体をパンパン振っているのは日本から来た僕ぐらいでした。

▶観光立国スイスに学ぶ遊び心



晴気も親水風景に一役買っている土師ダム(同ダム管理所提供)

司会 星野さんは、ことし9月に鬼怒川で堤防が決壊したとき、上流のダムの働きを調査しに国土交通省の事務所に行かれたそうですね。洪水調節中のダムの流入量、放流量をインターネットでリアルタイムに観測され、ダムの応援団をしてみたいという方が、どのようなところに面白さを感じるのか、お聞かせください。星野 僕は大雨・防災インフラを「国土防衛戦」ととらえています。洪水調節をリアルタイムに把握して情報発信するたためには、豪雨が予想されたら、即監視モードに突入し、気象庁の天気図、レーダー雨量、川の防災情報でダムの放流量や水位、

水吐です。日本はスイスに比べ、ダムに流れ込んでくる流量が多いので、洪水吐も大きいのが付いている。洪水吐マニアとして、スイスのダムはそこがちょっと物足りない。司会 スイスのような観光資源としてのダムの役立ち方のほか、日本のダムの管理所でこんなことをやったら、ダムのファンが増えるのではないかとアドバイスはありますか。萩原 スイスのダムでも見学はできるみたいですが、僕は言葉がネックだから参加しなかつたですけれど。最近、国土交通省や水資源機構などはダム見学者に対してすごく親切に対応してくれました。イベントもあちこちのダムで開催されており、昔、僕がダム巡りを始めたころに比べたら、相当思えた状況にあります。一方で、発電用のダムが最近どんどん無人化され、立ち入り禁止となつていることが残念です。管理上の問題として理解はできるのですが、もう少し地元の観光に貢献してくれればいいんじゃないかと思えます。

▶ダム操作の正しい解釈を発信

西村 タムにかかわる仕事に携わって15年になりました。ダムの仕事は幅広い知識・マニアックな専門知識の両方が求められ、また、濱口会長のように多くの経験を積み必要があるため、30代、40代はまだ若輩者、若手です。(こまめに)つらねられたのは、冒険に迷ったこと、根拠のないダム好きであることに加え、上司や同僚に教わったり、支えていただいているからです。

司会 そうですね。洪水調節に当たられるダム管理所の職員は、大変な緊張下、ダム操作に取り組まれていますから、星野さんのような分かりやすい解説ができる人がリアルタイムで情報発信して下さると、正しい理解につながります。西村さんはコンサル企業の技術者としてダムの設計や調査にかかわっておられるようですが、実際に仕事としてダム建設に取り組まれている中で、どのようなところが面白い、あるいはやり甲斐があると感じていますか。西村 タムにかかわる仕事に携わって15年になりました。ダムの仕事は幅広い知識・マニアックな専門知識の両方が求められ、また、濱口会長のように多くの経験を積み必要があるため、30代、40代はまだ若輩者、若手です。(こまめに)つらねられたのは、冒険に迷ったこと、根拠のないダム好きであることに加え、上司や同僚に教わったり、支えていただいているからです。

ダムからどれくらい放流しているか、そのための操作情報を次から次と確認していただきます。スポーツを観ることにたとえたら、夜のスポーツニュースで試合結果を知るのと同じで、リアルタイムな実況観戦のようです。ダムはその地域の地形や河川の特徴などに応じて型式や規模が異なり、操作の仕方も違います。洪水調節のルールはそれぞれ分りにくく、誰にでも簡単に理解できるような内容ではありません。操作規則が公開されていないダムがあります。操作規則は文字情報だけでは読み解くことが難しい。ダムが普段と違う操作をしたら、必ず理由があるはずですよ。雨量、ダムへの流入量、放流量、下流の水位を観測していき、その理由が見えます。ある程度知識を持った人がまず情報発信して、その人たちがダム一般の人たちに口コミでわりわり広まっていけばいいと思っています。

— 私たちはダム工学の発展に貢献しています —

- 一般財団法人 日本ダム協会
会長 宮本洋一
東京都中央区銀座2-14-2 銀座GTビル 電話(03)3545-8361(代)
一般財団法人 ダム技術センター
理事長 柳川城二
東京都台東区池之端2-9-7 池之端日産ビル 電話(03)5815-4161
一般財団法人 水源地環境センター
理事長 森北佳昭
東京都千代田区麹町2-14-2 麹町NKビル 電話(03)3263-9921
一般社団法人 日本大ダム会議
会長 橋本徳昭
東京都中央区日本橋人形町1-2-7 人形町サンシティビル 電話(03)5614-0968



一般社団法人 ダム・堰施設技術協会
会長 中川博次
東京都文京区関口1-47-12 江戸川橋ビル 電話(03)3267-0371

- 一般社団法人 電力土木技術協会
会長 佐々木直彦
東京都港区芝公園2-8-2 小貝ビル 電話(03)3432-8905
ダム工事総括管理技術者(CMED)会
会長 大内 齊
東京都中央区銀座2-14-2 銀座GTビル(一財)日本ダム協会内 電話(03)3545-8361
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
会長 長谷川伸一
東京都千代田区三番町1 KY三番町ビル 電話(03)3239-7992
一般社団法人 日本機械土工協会
会長 向井敏雄
東京都台東区東上野5-1-8 上野富士ビル 電話(03)3845-2727